

対大己法

福島伸悦

今、マスコミで日馬富士の傷害事件が報道されています。相撲ファンにとっては残念なことです。日馬富士がモンゴル人会の飲み会の席で、貴ノ岩の頭を殴ったという事ですが、それには原因があるはずです。一部の報道では、横綱が話しているとき、携帯をいじっていたという事です。これが本当であれば横綱に対して失礼な話です。しかし、暴力はいけません。真実が何なのか見守りたいと思います。

道元禅師は、集団の秩序を守り本来の修行を続けるために清規（しんぎ）というものを制定されました。清規は、修行僧がお互いに相手の修行を妨げず、敬い合うようにするためのものです。

その清規の中に「対大己法」というものがあります。正式には「大己五閻梨に対する法」といって、修行道場で5年以上修行した先輩に対する礼儀作法の事です。修行道場では、750年も前から現代にいたるまで当然のこととしての常識として守られ、秩序が保たれています。相撲も相撲道ですから、修行道場と同じような規律があると思います。育った文化の違う外国人力士が多く角界に入っていますが、教育というものが必要なのかと思います。

現代では、若い人だけでなく年配の人でも信じられないような光景を見ることがあります。礼儀作法などどこ吹く風で滅茶苦茶になっているような気がします。例えば、「第12 大己未だ坐せよと喚ばざるに、はやく坐することを得ざれ」というように、先輩が「どうぞお座りください」というまで坐ってはいけません。先輩や年長者に対しては、常に態度を謙虚にし言動に注意しなければなりません。

ややもすると、先輩ずらをして無茶苦茶な制裁を加えたり、絶対服従を強いたりする輩もいますが、優位に立つものは謙虚になる必要があるかと思います。パワハラと言われる人権侵害にもあたります。逆に先輩に対して慇懃無礼を働くものもいます。

今はみな平等の世界ですが、若い人も年配の人も勘違いしている所があるような気がします。お互いに、相手を尊敬する気持ちを忘れてはいけないと思います。